

次世代の力が

今、必要です

長崎からさまざまな形で平和の思いを発信する、次世代の方々の思いをお聞きしました。

祖父の体験を語る

原田小鈴さんは、広島と長崎で二重被爆した祖父山口彊さんの被爆体験を、県内をはじめ全国の学校や自治体で、紙芝居などを使って語り継ぐ活動をしています。

「祖父の晩年、証言活動のサポートはしていましたが、私自身が語り継ぐとは思っていませんでした。二重被爆者の孫ということを公表することへの迷いや、被爆体験がない私にそのような資格はないのでは…」という思いがくすぶっていました。

原田さんを今の活動に導いたのは、彊さんの死、そして被爆者のいない時代が確実に迫ってきているという事実。「学生など若い方には、体験がない同じ世代同士だからこそ伝わる事もあると思っています」。

一人ひとりが声をあげよう

紙芝居を読むと、感情移入して胸が苦しくなることもあるそう。「涙は流しません。祖父の思いを紡ぐためには、あの日の出来事を知ってもらわないと。感情を押しつけないようにして、聞いていただいたかたの素直な感想を大事にしたいですね」。

語り継ぐことについて、「三世としての役割を意識していますが、その力が必要だと思っています。講話などで子どもに『私には何ができる?』と聞かれることがあります。『平和の発信方法は人それぞれです。芸術や芸能、文化、スポーツなどいろんな表現方法があると思うので、難しく考えず、柔軟にでき



原田小鈴さん

二重被爆者の山口彊^{つひ}さんの孫である原田さん。「祖父が条約発効を知ったら『これからが正念場』と静かに語ったかもしれませんね」。



原爆資料館で昨年8月9日に行われた「家族交流証言」の様子

原爆の遺跡・碑で思いを紡ぐ

原爆の遺跡や碑は身近な場所にありながら、当時を知る貴重な記録であり、平和について考えるきっかけになります。

被爆者で長崎平和推進協会の継承部会員として被爆体験を語っている、森田博満さんは、「筑後町の東本願寺にある『非核非戦の碑』には『2万體分とも推定されたお骨が収納…』と刻まれています。私は当時、長崎駅付近で異臭とともに山ほど積み上げられた遺体を見ました。その様相は地獄絵図で、さぞ無念であつたらうと思います。今もなお、多くの遺骨が碑の下に眠っていますが、この碑を知るかたは多くありません。ぜひ、自分の目で確かめていただき、原爆の恐ろしさや平和の尊さを考えていただければ」と語ります。



原爆遺跡・慰霊碑ウォークマップ

200近い原爆の遺跡や慰霊碑を掲載しています。グーグルマップを利用したQRコードも付いていて、遺跡などの場所も簡単に探せます。抗菌カバー付き。長崎原爆資料館などで販売予定(1,100円)。詳しくは、長崎平和推進協会ホームページで。(長崎平和推進協会 ☎844-9922)

協会HP

※この雑誌は、資料が乏しいため、当時を知る方々の聞き取り調査を基に作成したものです。

2021-2 広報ながさき



代表の山口さん。「つらいことを話すにはエネルギーがいると思います。被爆者のかたには、これまで頑張っていたことに感謝して、私たちがその思いに応えたい」。

「核兵器のことを知ってもらうため、BB弾を使います」。突^と飛^びとも思えることを語るのは、長崎の大学生で構成し、主に小・中学校へ出前講座をしていくPeace Caravan 隊。BB弾は、分かりやすく正確に核兵器の現状を伝える工夫の一つです。

代表の山口さんは、「弾を核兵器に見立て、広島で一つ、そして長崎で一つ、と弾を金属箱にポトッと落とします。その後、世界にある約1万3000発を、一気に流し込みます。ザーツという流れと音。皆さん、核兵器の多さをじっと聞き入って感じています」。

児童・生徒からは、「今までにない感じで分かりやすかった」といった感想が寄せられるそう。「私たちの

ることを探してほしいですね。戦争・原爆を知らない世代が増えていきます。『被爆者・二世・三世だから』ではなく、次世代の私たち一人ひとりが声をあげましょう」。

オーダーメイドの出前講座

平和に関する取り組みは、きっかけも、感じ方も人それぞれ。次世代の方々の思いから見えたことは、一人ひとりが「はじめの一步」を見つけることの大切さです。あなたも、身近な所から平和を考えてみませんか。

※ ※ ※

講座はオーダーメイド。依頼主に時間や、どの程度平和学習をしているかなどお聞きし、当口のレベルや表現方法などを考えます。講座をしているここに原爆が落ちたらどんな被害が…など、聞き手側のリアルに寄り添うことも関心を持ってもらう方法の一つです」と続けます。

また、新型コロナウイルスへの対応としてメンバーの川本さんは、「リモートの講座にも使える動画を作成中です。飽きがないよう15分程度のシリーズで。最初は、原爆の概要や被害状況を伝えたい」と話します。

きっかけはさまざま

はじめの一步が大事

現在11人で活動していますが、県外出身者も多く、活動を始めたきっかけもさまざま。しかし、核兵器の現状を身近に感じてもらいたいという思いは共通で、皆さんがそれぞれの強みを生かしながら取り組んでいます。

手書きのメッセージとともに表紙に出演いただきました



高校生平和大使

核兵器廃絶を訴える第23代の高校生平和大使として、応募約500人の中から書類や面接で選考され、昨年は16の都道府県から28人が選ばれています。



青少年ピースボランティア

15歳から30歳未満の若者が被爆の実相や戦争について学び、行動することを目指すボランティアです。平和関連イベントでの活動や学習会などを開催しています。



ナガサキ・ユース代表団

核軍縮などに関する国際会議への参加や関連活動を通じて、最新の国際情勢を学び、世界で活躍する人々と出会うことで、知識を行動に結びつける力を養うことを目指しています。現在の第9期生は9人です。